

## 編集後記

( 56巻 第1号 2010年1月 )

皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年から続く景気の後退は依然として暗く日本を覆っています。また、政権交代によって医療分野の予算充実が期待されましたが、たった0.19%の増加という期待はずれの結果になってしまいました。これからは、この0.19%増の範囲内でのパイの取り合いが中医協で行われるのでしょう。しかし、この程度の増額では、その配分にくら大ナタをふるったとしても、医療の立て直しどころか医療崩壊をストップさせることすら出来ないのではと心配しています。

本号での岩手医科大学の藤岡教授との対談でも、地方での医療崩壊が話題になりました。これだけ高度化・高額化した医療においては、万人が納得する「イーハトーブ」を求めることはきわめて難しいことです。理想の医療に対する個人の価値観も多様です。ただ最もシンプルで絶対に間違いの無い答えは「目の前の患者さんに最善を尽くす」ことです。しばらくは大変な時代が続くと思います。皆様のご活躍をお祈りし、新春の編集後記とさせていただきます。

( 小川 修 )